

波と風

理 念

思いやりのある
やさしい誠実な医療を
提供します

基本方針

1. わかりやすい説明による安心・安全な医療を提供します
2. 最新の知識と技術による質の高い医療を提供します
3. 地域医療機関との連携を強化し、地域社会の発展に貢献します
4. 高度な専門性をもつ医療人の育成に努めます
5. 医療資源を適正に活用し、健全な経営を実践します

CONTENTS

- 2～3P 診療科紹介 (麻酔科)
- 4～5P 診療科紹介 (歯科口腔外科・歯科)
- 6P 診療科紹介 (小児科)
- 7P 職場紹介 (看護部長室)
- 8～9P 職場紹介 (外来)
- 10～11P 職場紹介 (栄養管理室)
- 12P 職場紹介 (企画課 経理部門)
- 13P 第14回 臨床研究セミナーを開催して
- 14～15P 「第6回地域医療連携のつどい」を終えて
- 16～17P 職員研修 (コーチング研修) に参加して
- 18～19P ふれあい看護体験を開催して
- 20P 8月オープンスクール
- 21P 認定看護師の紹介
- 22P うちの部署の接遇キラリさん
- 23P 連携医療機関紹介 (かわもと心臓内科クリニック)
- 24P 我が家のスターたち、寄付について、編集後記

麻酔科

手術の安全と安心を支える
「周術期管理」の専門家

麻酔科科長 讃岐 美智義



皆さんは「麻酔科医」と聞くと、どのような仕事を思い浮かべるでしょうか。「手術中に患者さんを眠らせる仕事」というイメージが強いかもしれませんが。もちろんそれは大切な役割の一つですが、私たちの仕事はそれだけではありません。

手術が決まった時から手術後の回復まで、患者さんの体の状態を総合的に見守り、合併症を防いで、より良い回復に導くこと。これを「周術期管理」と言います。私たち麻酔科医は、この「周術期管理のプロフェッショナル」として、皆さまの命を守る医療の要を担っています。



1. 手術室での麻酔管理と安全の追求

手術中、患者さんが痛みや不安を感じることなく、穏やかなうちに手術を終えられるように、全身の状態を管理します。麻酔で特に大切にしているのは、以下の4つの状態です。

- ・意識や手術中の記憶がないこと（健忘・十分な眠り）
- ・痛みを感じないこと（鎮痛）
- ・体が無意識に動いてしまわないこと（筋弛緩）

- ・血圧や脈拍の急な変化といった、体への負担となる反射を抑えること

最新の機器による見守り

麻酔中は、心電図、血圧、パルスオキシメーターで測定できる酸素飽和度（SpO₂）、呼気に含まれる二酸化炭素濃度、体温などを常に監視しています。また、額（ひたい）に小さなセンサーを貼り付けて脳波を測定し、眠りの深さを客観的な数値で確認することで、麻酔薬の量を一人ひとりに合わせて調整し、手術中に目が覚めてしまう「術中覚醒」を防ぎます。

超音波（エコー）も広く活用しています。心臓手術では、エコーで心臓の動きをリアルタイムに評価し、より安全な麻酔管理につなげます。また、神経ブロック（区域麻酔）という、痛みを感じる神経の近くに薬を効かせる処置を行う際にも、超音波の画像を見ながら正確かつ安全に薬を届けることで、手術後の痛みも効果的に和らげます。



2. 手術前から回復まで。手術室の外での仕事

麻酔科医の仕事は、手術前から始まっています。手術を万全の状態乗り越え、順調に回復していただくための準備が、手術の成功を左右する鍵となります。

術前評価とリスク対策

手術前の診察では、持病や内服薬の状況はもちろん、喫煙習慣や栄養状態、体力（フレイル）、お口の中の状態（虫歯・歯周病）など、手術の安全性に影響する点をご本人やご家族と一緒に丁寧に確認します。

例えば、お口のケアをしっかり行うことは、術後の肺炎予防に繋がります。必要に応じて、術前から禁煙や栄養の指導、口腔ケアへの介入を行い、合併症のリスクを減らす取り組みを進めます。

術後の痛みを和らげる工夫

術後の痛みは、患者さんにとって大きな苦痛であるだけでなく、回復の妨げにもなります。当院では、硬膜外鎮痛や静脈内自己調節鎮痛（PCA：Patient Controlled Analgesia）といった方法を積極的に用いて、痛みを最小限に抑えます。

PCAは、点滴から持続的に鎮痛薬を投与しつつ、痛みが強くなった時にご自身のタイミングでボタンを押して薬を追加できる仕組みです。痛みがよく抑えられると、早期離床（なるべく早くベッドから起きて歩くこと）が進み、合併症を減らして回復を早めることができます。

ごくまれに、手術から数か月経っても傷の痛みが続く「遷延性術後痛」という状態になることがありますが、これも適切な治療で和らげることが可能です。気になる症状があれば、いつでも遠慮なくご相談ください。

3. 手術室の外来診療（ペインクリニック）

麻酔科医は「痛み」の専門家でもあります。带状疱疹の痛みや、けがの後になかなか治らない痛み、その他原因が複雑な痛みに対して、専門的な診断と治療を行う「ペインクリニック」という外来も担当しています。現在、木曜日の午後に専門医が診療を行っておりますので、受診をご希望の方はお気軽に主治医の先生へご相談ください。

チーム医療で支える安心の医療

麻酔科の仕事は、医師だけで成り立つものではありません。手術室の看護師、薬剤師、臨床工学技士といった多くの専門職と緊密に連携することで、安全で質の高い医療が実現します。私たちは、患者さんの生命を尊重し、心に寄り添う「思いやりのある、やさしい誠実な医療」を大切に、皆さまが一日も早く健康で活動的な生活を取り戻せるよう、チーム一丸となって全力で支えてまいります。

歯科口腔外科 ・ 歯科

歯科口腔外科の診療について

歯科口腔外科科長 武知 正晃



平素よりご高配を賜り、ありがとうございます。
歯科口腔外科では、口腔内の良性腫瘍や嚢胞、口腔粘膜疾患、外傷性疾患、顎関節症、顎骨骨髓炎や膿瘍などの炎症性疾患、全身性疾患を有する人の抜歯や埋伏歯などの口腔内疾患の治療および手術時、化学療法や放射線治療時などの周術期における口腔内の管理と誤嚥リスクのある患者の口腔ケア、入院中患者の急な歯痛や義歯修理などの応急的一般歯科治療を主軸に診療を行っています。

骨吸収抑制薬関連顎骨壊死(anti-resorptive agents-related osteonecrosis of the jaw:ARONJ)の患者が経年的に増えてきており、これに関連する手術も増加傾向です。そして顎骨骨髓炎・顎骨壊死症例に対し、当院の特色の1つとして大型高圧酸素療法室を有しており、術後追加治療として高圧酸素療法を活用することで、臨床経過、予後が非常に良くなりました。

また2022年1月から口腔インプラント治療を開始し、以後、口腔インプラント関連手術(顎骨再建治療、上顎洞底挙上術(サイナスリフト)、ベニアグラフと、スプリットクレストやGBRなどの骨造成手術)が徐々に増加してきています。当科では、全ての症例において術前にCT撮影後、解析ソフト(シミュレーションソフト)を使用し、術中にサージカルガイドを用い様々な骨造成を行っています。これらを応用することで、手術時間の大幅な短縮とより安全で確実な手術が可能となりました。さらに他院でのインプラント関連トラブルも年々、増える傾向にあり、そのような症例も多く当科に紹介され、全ての症例に対応しています。

平成24年度(2012年)の歯科診療報酬改訂で、先進医療「インプラント義歯」が「広範囲顎骨支持装置」および「広範囲顎骨支持型補綴」として保険導入されました。また、「広範囲顎骨支持型装置」を顎骨

に埋入する手術を「広範囲顎骨支持型装置埋入手術」といい、従来の自由診療で行われているものと混乱を避けるために、インプラント埋入手術とは言いません。広範囲顎骨支持型装置埋入手術を実施できる施設の要件があり、当科ではその施設基準をすべて満たしていたため、厚生労働省に届出し認められました。広範囲顎骨支持型装置埋入手術の適応症は以下のいずれかに該当し、従来のブリッジや有床義歯では咀嚼機能の回復が困難な患者に対して実施した場合です。

- ・腫瘍、顎骨骨髓炎、外傷等により、広範囲な顎骨欠損若しくは歯槽骨欠損症例(歯周病および加齢による骨吸収を除く。)またはこれらが骨移植等により再建された症例であること。
- ・なお欠損範囲について、上顎は連続した4歯相当
- ・以上の顎骨欠損症例又は上顎洞若しくは鼻腔への交通が認められる顎骨欠損症例であり、下顎では、連続した4歯相当以上の歯槽骨欠損又は下顎区域切除以上の顎骨欠損であること。
- ・医科の保険医療機関の主治医の診断に基づく外胚葉異形成症等又は唇顎口蓋裂等の先天性疾患であり、顎堤形成不全であること。
- ・医科の保険医療機関の主治医の診断に基づく外胚葉異形成症等の先天性疾患であり、連続した3分の1顎程度以上の多数歯欠損であること。
- ・6歯以上の先天性部分無歯症又は前歯及び小臼歯の永久歯のうち3歯以上の萌出不全(埋伏歯開窓術を必要とするものに限る。)であり、連続した3分の1顎程度以上の多数歯欠損(歯科矯正後の状態を含む。)であること。

以上の条件で咀嚼など困っている患者さんがいれば、当科で広範囲顎骨支持型装置埋入手術が可能ですのでぜひご相談いただければと思います。(他に様々な要件を満たす必要がありますので、当然すべ

ての患者さんが手術を受けられるとは限りません。)最後に歯科口腔外科スタッフは、呉医療圏の様々な歯科関連疾患患者を救う目的で、日々奮闘してお

ります。今後とも何卒ご指導の程、よろしくお願い致します。

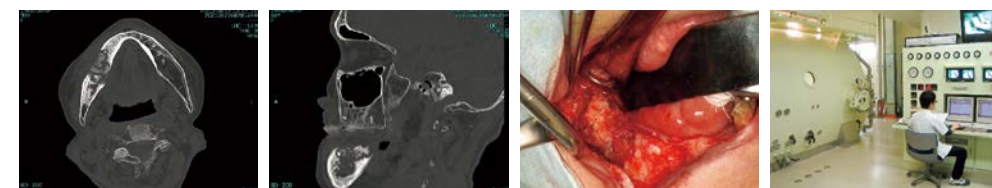


写真1 顎骨骨髓炎・顎骨壊死症例における術後の高圧酸素療法

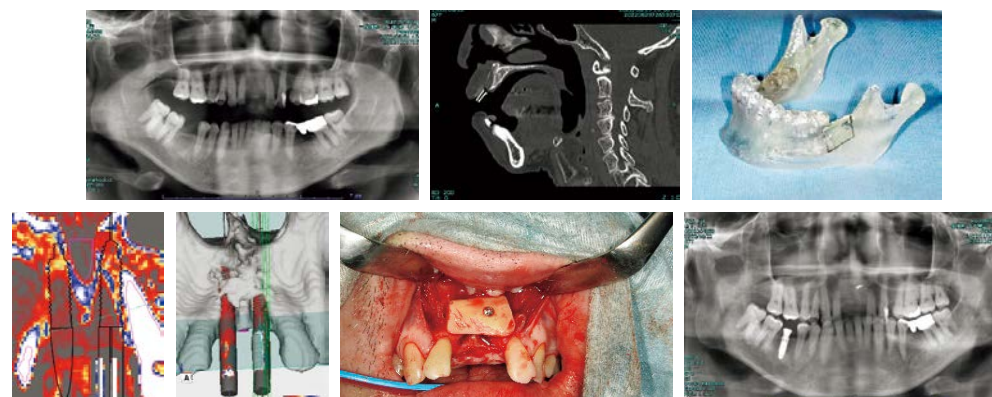


写真2 術前にCT撮影後、シミュレーションソフトを使用し、術中にサージカルガイドを用いたベニアグラフト症例

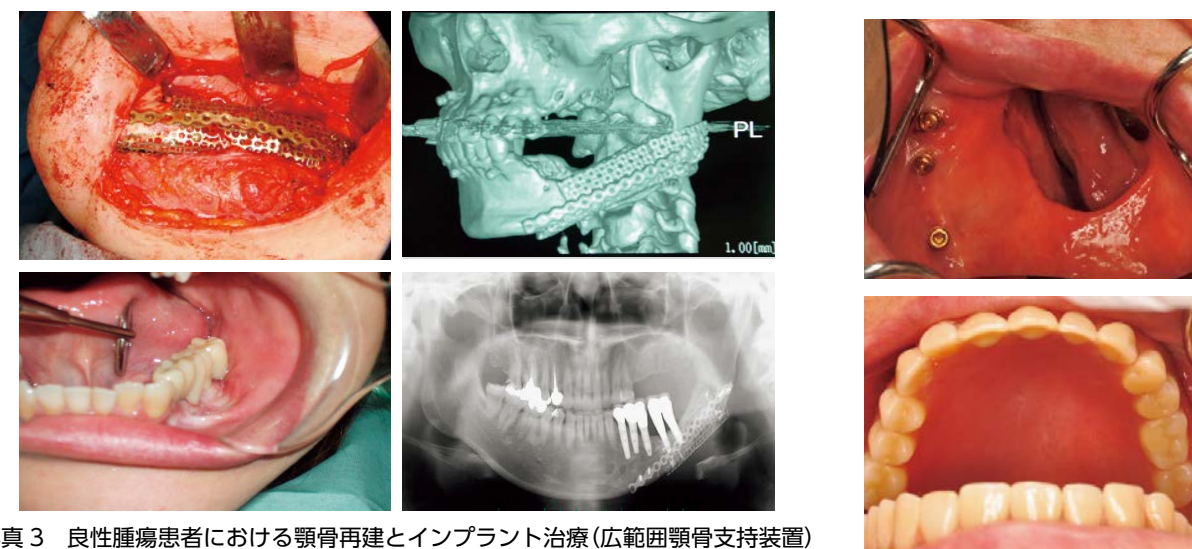


写真3 良性腫瘍患者における顎骨再建とインプラント治療(広範囲顎骨支持装置)

写真4 上顎悪性腫瘍患者術後におけるインプラント治療(広範囲顎骨支持装置)



写真5 歯科口腔外科スタッフ

小児科

少子化時代の小児科

小児科科長 世羅 康彦



当院小児科は日本小児科学会専門医 6 名、後期研修医 2 名の計 8 名の医師が在籍。呉医療圏を中心に、江田島市や東広島市、竹原市など周辺の医療圏もカバーして小児の診療にあたっています。

当院小児科においては外来・入院診療、新生児医療、救急医療と小児科全般の診療をしています。外来・入院診療では、一部の疾患を除きほぼすべての疾患に対応できるよう準備をしています。また、新生児医療に対しては 24 時間・365 日で対応できる体制を整えています。救急医療では、中国労災病院の小児科とともに小児輪番制をとり、二病院で分担して小児救急の受け入れをしています。当院では月・水・木・土曜日が輪番の当番に当たっています。

以前、本誌「波と風」で「コロナ禍中の小児科」というタイトルで、当科を紹介しました。その時はまだコロナ後がどんな世界になるのかわかっていませんでした。そして今、小児科は少子化という波に襲われています。病気になることが少なくて、患者が減ることはとてもいいことですが、現在の小児科は子供が少なくて、患者が少ない状態です。この状態は、「小児科が・・・」という診療科の問題ではなく、「日本の将来が・・・」という問題です。今、すぐに子供が増えるという答えはありませんが、我々、小児

科としては子供たちの健康を維持し、病気を治してあげなくてはなりません。また患者の小児科受診のニーズも、少子化ゆえに高まることも考えられます。

小児科は多くの人にとって、人生で初めて受診する診療科と思われます。しかし、「怖いところ、痛いことをされるところ」という、ネガティブなイメージがある診療科でもあります。そのイメージは間違っているかもしれませんが、どの小児科も子供たちの病気を予防し、治すことに、真剣に向き合っています。予防接種は痛いですが、薬は美味しくありませんが、子供たちはがんばって受診してくれます。そのがんばりに応えられるよう、我々も真摯に子供達に向き合い、自己研鑽し続けていきます。



看護部長室

副看護部長 平畠 真希



看護部長室では看護部長 1 名、3 人の副看護部長、3 名の事務クークが在籍しています。副看護部長は「教育」「労務」「業務」の担当に別れ業務を行っています。今年度、当院で初めての男性副看護部長が配属となり、そのキャラクターからもより明るく楽しい看護部長室となっています。

事務クークはメッセンジャー業務、各種書類の点検や看護師宿舎の管理など、幅広く私たちを支えてくれています。

看護部事務室では看護部の理念である「専門性をいかしたやさしさのある看護」に向けて、看護職員が責任とやりがいを持ち、より良い看護実践が行えるよう支援しています。

また、看護部の目指す看護師像である【やさしさとおもいやりのある根拠に基づいた看護の実践ができる看護師】に向け、教育担当看護師長と共に教育計画を立案・実施し、看護職員の育成に努めています。

【看護部の理念】

専門性をいかしたやさしさのある看護

【基本方針】

1. 看護者の倫理綱領に基づき、専門職として責任ある看護の提供に努めます
2. 医療関係者と共同してチーム医療の充実に努めます
3. 安全で安心な看護の提供に努めます
4. 専門職業人として自己啓発に努めます
5. 働きやすい職場環境づくりに努めます





外来

看護師長 鎌元 浩司



外来看護部門は、看護師長2名(外来担当、病床管理担当)、副看護師長2名、看護師72名、事務クラーク19名、看護助手3名からなる、総勢約100名の看護職員で構成されています。

外来の主な6部署をご紹介します。

【診療科外来】

当院は39の診療科を有し、毎日900名近い患者さんが来院されます。多くの患者さんと最初に接する外来看護師は、病院の「顔」としての自覚を持ち、心のこもった接遇を心掛けています。待ち時間の短縮や円滑な診療を支えることはもちろんのこと、病气への不安を抱える患者さんやご家族のお気持ちに寄り添い、精神的な苦痛を少しでも和らげることができるよう努めています。



【中央処置室】

中央処置室では、採血、点滴・注射などを行っています。外来の患者さんの多くが採血後に診察を受けられるため、採血から診察までをスムーズに進めることが重要です。そこで採血の待ち時間をできる限り短縮し、迅速に検査結果を報告、そしてスムーズに診察に移行できるよう取り組んでいます。その一環として、各診療科外来などから、スタッフの採血応援体制を構築しています。また採血台を14台に増設し、採血の待ち時間の短縮を図っています。特に混み合う朝8時30分から9時までの間に、80名から100名ほどの患者さんの採血を行い、診察に繋がっています。これからも安全を確保した上で、採血・検査結果報告・診察までの時間を短縮できるよう心掛けていきます。



中央処置室看護師と看護助手



既存の採血台



増設された採血台①



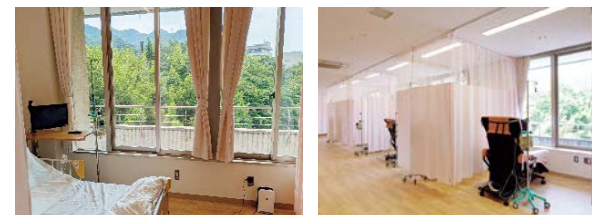
増設された採血台②

【化学療法センター】

令和7年5月より新たに化学療法センターを稼働しました。より多くの患者さんに対応できるよう、ベッド数を16床から30床へと増床しました。新しい化学療法センターは8階に位置しており、窓から広がる景色を眺めながら、リラックスして治療を受けることができます。令和7年5月から8月までの4ヶ月間の化学療法件数は約1660件となり、前年同期と比較して約50件増加しています。こうした外来化学療法件数増加の背景には、新しい治療薬や副作用を抑える薬の開発が進み、患者さんが仕事や家事といった日常生活と治療を両立しやすくなったことが挙げられます。化学療法センターの看護師は、患者さんが安心して安全に治療を受けられることはもちろん、患者さん自身が自宅での副作用の管理できるよう、相談に応じています。がん薬物療法看護認定看護師が1名在籍しており、専門知識と技術で質の高い看護を実践するとともに、他の看護師への指導を通じてチーム全体の看護の質の向上に努めています。



化学療法センター看護師と事務クラーク



8階化学療法センターからの景色

【放射線腫瘍科放射線治療室】

このたび、放射線治療装置と治療計画用CT装置を一新し、令和7年9月1日から治療を全面再開しました。新しい治療装置「Radixact」は、呼吸によって動く肺や肝臓のがんもリアルタイムで追尾し、正確に放射線を照射します。さらに、治療中に患者さんの体が動いた際には自動で停止する安全機能も搭載しています。同時に導入した治療計画用CT装置「Aquilion Exceed LB」は、少ない被ばく線量で極めて鮮明な画像を撮影でき、より精度の高い治療計画を立てることを可能にします。これら最新の装置により、全身のさまざまながんに対し、これまで以上に安全かつ高精度な放射線治療を提供できるようになりました。もう一つの特徴として、天井を透き通る青空のデザインにすることで、治療装置による閉塞感や圧迫感を和らげ、開放的な空間となるよう工夫しています(まるでスタンドガラスのような綺麗な青空が広がっているように見えます)。加えて、患者さんが安心して治療に臨むことができるよう、



新しくした放射線治療室

看護師2名で、一人ひとりに寄り添ったきめ細やかなケアを心掛けています。

【内視鏡センター】

内視鏡センターの看護師は、消化器内視鏡検査・治療、気管支鏡の検査介助を行っています。令和7年度4月から8月までの検査・治療件数は3,300件、月平均で約600件にのぼります。特に消化器

内視鏡分野では、早期の胃がんや大腸がんに対する内視鏡的粘膜切除術(EMR)や内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)をはじめ、超音波内視鏡(EUS)、カプセル内視鏡、胆膵疾患に対する専門的な内視鏡検査・治療を積極的に実施しています。看護師は、患者さんが安全かつ安楽に検査・治療を受けられるよう、丁寧な関わりを心がけています。検査前には、十分な説明と不安を和らげる精神的ケアを、検査中にはバイタルサインのモニタリング、苦痛を和らげるための声かけ、そして医師の介助を行っています。現在、内視鏡センターには消化器内視鏡技師資格を持つ看護師が3名在籍しております。近年の内視鏡診療は手技の難易度が高まっており、より高度な知識とスキルを備えた看護師の役割が重要になっています。これらをふまえて今後も、スタッフ一人ひとりが専門知識・技術の向上に努め、患者さんにより安全で質の高い看護を提供できるよう努めています。



ERCP

【血管撮影室】

脳血管領域をはじめ、透析用シャント血管狭窄・閉塞におけるシャントPTAや長期留置カテーテル挿入術等、循環器領域を除く全てのIVR(画像下治療)の介助を担当しています。令和6年度には年間511件のIVRを実施し、そのうち172件が緊急IVRでした。脳血管内治療をはじめ、腹腔内出血などの動脈性出血に対する塞栓術といった、緊急性が高く高難度な治療にも対応しています。血管撮影室にはインターベンションエキスパートナースが1名在籍しており、安全な治療介助と、医師・診療放射線技師と積極的なチームコミュニケーションを通じて、質の高いチーム医療を実践しています。医師の治療サポート、被ばく線量低減に向けた環境整備の取り組みのほか、他の看護師への看護実践指導も行い、看護の質の向上に努めています。



脳神経外科IVR



栄養管理室

栄養管理室長 兼 任美



【部署の特徴】

栄養管理室ではチーム医療にたずさわる部門として、適切な栄養管理のもと患者さん一人ひとりに応じた食事の提供を行い、栄養面からの疾病治療をサポートしています。

管理栄養士 10 名(うち育休 2 名)、事務助手 2 名、調理師 5 名、調理助手 5 名、給食委託会社が協力して食事を提供しています。



【給食管理】

入院中の食事は、患者さんにとって楽しみの一つでもあり、治療の一環でもあります。美味しく安全に食べていただけるよう衛生管理の徹底に努めています。嗜好調査結果や患者さんのご意見に耳を傾け、メニュー内容の変更や調理方法の見直し等も行っています。患者さんに食事を通じて季節を感じていただけるように、調理師と栄養士で相談し旬の食材を用いたお食事を心がけています。

・行事食

季節の行事に合わせて行事食をご用意し、メッセージカードを添えて提供しています。



10月1日
＜開院記念日＞



あずきご飯、鯖もろみ焼き、炒め煮、酢の物、和菓子

10月第2日曜日
＜呉秋祭り＞



ちらし寿司、豚肉炒め物、炒め物、お浸し、和菓子

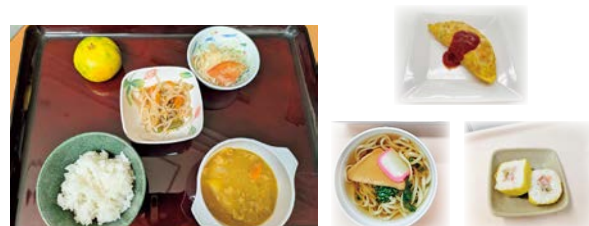
・お祝い膳

出産されたお母さんに、赤ちゃん誕生のお祝いと健やかな成長を願う気持ちを込めて、当院の調理師が心をこめて作るお祝い膳の提供をしています。



・特C食

化学療法による食欲低下の患者さんを対象として提供しています。



・精神科病棟

＜七夕＞

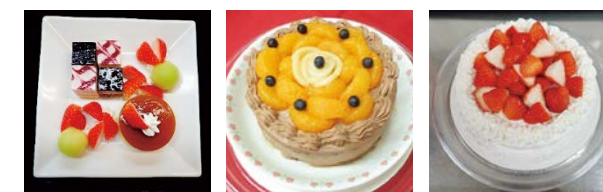
炭酸ゼリーで爽やかに仕上げました



＜お月見＞



・緩和病棟



・個別対応

栄養士が病室を訪問し、アレルギーや嗜好の聞き取り、食事形態の調整を行っています。また食事が十分に摂取できず栄養量が不足する場合には、食事の調整や栄養補助食品の提案も行っています。

【栄養管理】

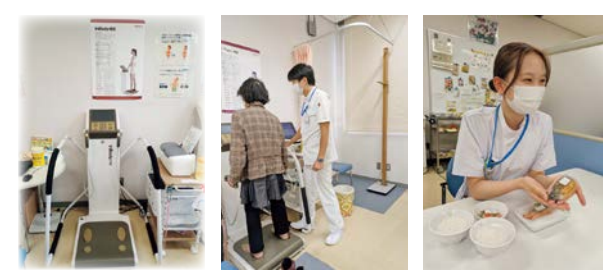
病棟担当栄養士が、各病棟の患者さんの栄養管理を実施しています。また多職種と連携した各チーム医療や診療科カンファレンスにも参加し患者さんの栄養サポートを行っています。そのほか入院・外来の患者さんに対して食事相談や糖尿病集団教室を行っています。

・個人指導(外来・入院患者)

月曜日～金曜日(祝日を除く)の8:30～16:30 ベッドサイド、栄養相談室にて栄養指導を行っています。

病態やライフスタイルに配慮しながら、患者さんやご家族とも相談しながら実践可能なアドバイスを心がけています。

外来栄養指導の患者さんは毎回体液測定を実施し、体重だけではなく、骨格筋量、体脂肪量、浮腫の程度の測定を行い、根拠に基づいた栄養指導を行っています。



・糖尿病集団指導(外来・入院患者)

糖尿病教育入院の患者さんを対象に糖尿病教室を行っています。医師・看護師・薬剤師・理学療法士・臨床検査技師、栄養士がそれぞれの分野を担当しています。

担当栄養士は、食事に対する疑問や悩みなどを情

報交換しながらお話をしています。



・周術期栄養管理

2022年4月8日より全身麻酔下で手術(上部消化管外科、呼吸器外科、泌尿器科)を行う患者さんを対象に入院前から栄養状態を把握し、術後早期に適切な栄養管理を行っています。

・チーム医療

栄養サポートチーム、褥瘡対策チーム、摂食嚥下チーム、各診療科カンファレンスなどチーム医療に参加し、多職種と連携しながらチーム一員として、適切な栄養管理を提案しています。

・NST (栄養サポートチーム)

NSTは患者さんに適切な栄養管理が行われるように支援する事を目的としたチームです。

当院では医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士が丸となり、それぞれの専門の知識を出し合って患者さんにとって最良の栄養管理方法を検討しています。

カンファレンス・病棟回診は、週1回火曜日に行っています。

また、当院は日本栄養治療学会認定の認定教育施設として、40時間の臨床実地修練を年1回実施しています。

院内だけでなく院外からの受講生も受け入れています。

受講希望がある方は、呉医療センターホームページよりお申し込みください。



臨床実地修練の様子



企画課 経理部門

企画課長 田中 光照



事務部は、企画課と管理課で構成されており、企画課の中には経理部門と医事部門、そして経営企画室があります。医事部門と経営企画室は外来診療棟1階に所在していますが、今回は、外来診療棟3階に所在する企画課経理部門についてご紹介します。

企画課経理部門は、病院運営において欠かせない「お金」に関わる業務を担っており、経理係・財務管理係・契約係の3つの係で構成されています。

1. 経理係(債務の管理)

経理係は、病院が支払うべきお金、いわゆる『債務』の管理を担当しており、主な業務は次のとおりです。

- ・物品購入や契約に伴う業者への支払い
- ・給与や旅費等の職員への支払い
- ・科学研究費や臨床研究費などの研究費全般の管理執行
- ・(寄附の受け入れ)

支払い件数も多く、扱う金額も非常に大きいため、利便性、業務効率化等からネットバンキング(インターネットを利用した銀行取引)を活用しています。現金を扱うことはほとんどありませんが、厳正な処理が求められますので、緊張感と正確性をもって業務に臨んでいます。

2. 財務管理係(債権の管理)

財務管理係は、病院に入ってくるお金、いわゆる『債権』の管理を担当しており、主な業務は次のとおりです。

- ・医療費等の収納・管理
- ・医療費未払者への対応(窓口・電話・督促状・法的措置)
- ・補助金(国・地方自治体)の申請・管理

医療費未払者への未収金対応については、患者様の事情に配慮しつつも、確実な医療費の回収を行うため、粘り強く丁寧な対応が求められます。医事部門と連携・協力し督促に努めていますが、回収が困難な場合もあり、昨年度より弁護士へ債権回収を委託する取り組みも始めたところです。

3. 契約係(調達と契約の管理)

契約係は、病院運営に必要な『物品・業務の調達および契約』を担当しており、主な業務は次のとおりです。

- ・医薬品、医療材料、医療機器、消耗品等の調達および契約
- ・給食・清掃・保守点検などの業務委託契約
- ・施設・設備の工事・修繕契約
- ・固定資産(物品)の管理

すべての契約を各種規程に基づく厳格なルールのもとで管理し、必要な物品・サービスを必要な時に調達できるよう取り組んでいます。なお、調達・契約においては、価格交渉や契約内容の見直しを含めた適正なコスト管理を行い、経費節減と資源の有効活用にも日々取り組んでいます。

－ 企画課経理部門の体制と姿勢 －

すべての係において「お金」に関わる重要な業務を担っており、法令遵守(コンプライアンス)と高い倫理観が求められます。そのため、財務及び会計に関する基準を定めた「独立行政法人国立病院機構会計規程」等に基づき必要な手順を踏み、各係において複式簿記による各種伝票(入金・振替・出金)を取引ごとに正確に作成し、管理者によるチェックを行う体制を整えています。

現在、企画課経理部門には15名の職員が在籍しており、経理・財務・契約のそれぞれの分野において、職員一人ひとりが根拠ある判断と責任ある行動を心がけ、常に精度と効率を追求しながら業務に取り組んでいます。

－ 最後に －

企画課経理部門は、病院運営の基盤である「資金管理」を通じ、安定的かつ適正な医療提供の実現に向けて責任感を持って取り組んでいます。「お金のこと」は少し堅いイメージがあるかもしれませんが、分からないことがあればお気軽にお尋ねください。

第14回 臨床研究セミナーを開催して

治験主任 矢野 圭悟



治験管理室では2013年より、治験・臨床研究の啓蒙活動の一環として臨床研究セミナーを開催しています。今年は独立行政法人 医薬品医療機器総合機構(PMDA)の藤原 康弘理事長をお招きし、「創薬力向上に向けた PMDA の取り組みと治験実施側をお願いしたいこと」をテーマにご講演いただきました。藤原理事長には2016年より、コロナ禍での2回の中止を除き、毎年継続してご登壇いただいております。



講演では、医薬品開発を取り巻く環境の変化、創薬力向上に向けた行政の対応、革新的医薬品の開発促進に向けた PMDA の取り組み、そして治験実施側に期待される役割について幅広くお話しいただき

ました。

特に印象的だったのは、“ドラッグ・ロス”と呼ばれる課題です。すでに海外で承認されている医薬品が日本では未承認であるために、患者さんが利用できない状況が拡大しており、世界で販売されている新有効成分医薬品のうち日本で利用可能なものは半以下にとどまっています。なかでも抗体薬物複合体(ADC)や細胞・再生医療などの新規モデルティにおけるドラッグ・ロスは、2030年頃にはさらに拡大すると見込まれています。さらに、日本企業主導の臨床試験数も減少傾向にあるとの指摘がありました。こうした課題に対応するため、行政やPMDAとしては本邦の創薬力強化や薬事規制の見直しに取り組むとともに、小児用医薬品・希少疾病用医薬品の実用化支援、治験エコシステム導入推進事業などを進めていることをご紹介いただきました。治験・臨床試験に携わる立場として、非常に示唆に富み、考えさせられる内容が多くありました。

今後、治験管理室としては、一つでも多くの治験を実施することで、本邦におけるドラッグ・ロスの解消に少しでも貢献できればと考えております。



「第6回地域医療連携のつどい」を終えて

地域医療連携部長 吉田 成人



「第6回地域医療連携のつどい」を7月3日(木)にクレイトンベイホテルで開催し78医療機関から147名、院内から102名の計249名の方に参加頂き、顔の見える連携の場としてつどいの会を盛大に行うことが出来ました。これも一重に当院と連携して頂いている皆様方のご協力の賜物と感謝している次第です。

開催当日は繁田正信院長の挨拶に続き、御多忙の中お越し頂いた呉市医師会会長 石井外科診療所院長 石井哲朗先生にご挨拶して頂きました。

また、本年度は乾杯の前に当院の3つの診療科の紹介をさせて頂きました。高木慎太郎消化器内科科長、熊谷正俊産科・婦人科科長、妹尾直呼吸器内科科長より各科の特徴や最新の医療について説明をさせて頂きました。その後、乾杯の発声を田代裕尊副院長にいただき、和やかな雰囲気の中つどいの会が行われました。

後半には地域医療連携室室長の久保田益巨内分

泌・糖尿病内科科長と地域医療連携室副室長の西岡初子看護師長より当院の連携状況についてのアンケート結果と今後の対策について報告しました。予約制度に対するアンケートの満足度76%（満足・やや満足）、地域医療連携室の対応の満足度85%（満足・やや満足）と非常に高い評価を頂きました。外来予約に関しては、地域連携枠を設置したことで以前より予約取得が早くなったという意見がある反面、昨年同様に予約の返事が遅いという意見も頂きました。そこで対策として、地域連携枠に限り地域の先生方がスマホなどで直接診療予約を出来るシステムの導入を現在検討しています。また、内視鏡予約に関しては、受診回数の軽減目的で6月より上部消化管内視鏡検査予約を(当面は月曜日と金曜日のみ)開始し検査と結果説明が1回の来院で出来るようにしました。アンケートの結果に対しての改善はまだ不十分な点が多いですが、頂戴したご意見を今後の地域医療連携に活かしていきたいと思ひます。



会場風景

最後に、大庭信二副院長より挨拶をいただき盛況の中、一本締めで閉会となりました。「地域医療連携のつどい」を終えて、連携施設の皆様と直接お会いしてお互いの気持ちを理解し貴重な時間を過ごす

ことが出来ました。今後とも繁田院長をはじめ全職員が、連携施設の皆様と心の通った医療連携を目指してまいりますのでご指導とご鞭撻を宜しくお願い致します。



院長 繁田正信



呉市医師会会長 石井外科診療所院長 石井哲朗先生



副院長 大庭信二



副院長 田代裕尊



職員研修(コーチング研修)に参加して

6A 病棟看護師長 岩川 心一



この度、病院職員研修「コーチング研修」に参加させていただきました。

本研修には呉医療センターに所属する医師、看護師、その他メディカル、事務職員など総勢 28 名が参加し、講義やグループディスカッション、ロールプレイを通じて、コーチングの基本的な考え方やスキルを学ぶことができました。

それでは、私が研修に参加しての学びについてご紹介させていただきます。まずコーチングとは「パフォーマンス向上のために対話によって部下・同僚などを勇気づけ、気づきを引き出し、自発的行動を促すコミュニケーションスキル」と定義されています。コーチ(上司)は対話を通じてコミュニケーションを交わしながら、聴き、観察し、質問し、時には提案することによって、部下・同僚がより効率よく、より効果的に行動できるよう焦点を絞り、あらゆる行動の選択肢を明確にすると同時に、現在地と向かう先の位置(目標)を意識させるような関わりが必要となります。コーチがコーチングスキルやコーチング知識を活かして関わることで部下・同僚が自分の責任において意思決定や選択を行い、行動を起こした結果、成果がもたらされると言われています。

このコーチングには信頼関係の構築に必要な「承認」「傾聴」、気づきを引き出すために必要な「質問」「フィードバック」の 4 つのスキルがあります。

1 つ目の「承認」とは、人は認められることで安心感を持つことができ、自分自身を信頼する気持ち(自己信頼)が生まれます。その結果、次の目標に向けて前向きな行動を起こすことができるようになり、自己信頼が増し、さらにモチベーションが高まりま

す。承認のポイントは、

- ①存在承認(存在自体の承認)：目を見る、頷く、意見を聴く、挨拶をする、名前を呼ぶ等
- ②行動承認(行動に対する承認)：相手が行った行動に対して承認する
- ③結果承認(結果・成果に対する承認)：相手が行動し得た成果や結果を承認する

があげられ、相手を信頼し敬意を払い、心をニュートラルにし、部下の視点に立つことが大切です。

2 つ目の「傾聴」は、相手の話を「耳」「目」「心」で聞くことです。上司・マネージャーが相手の話をしっかり聞くことで安心感を与えることができ、相手が頭の中を整理することを促すことができます。傾聴のスキルには、

- ①ペーシング：話す速度やトーンなど相手のペースに合わせること。
- ②相づちを打つ：相手の話に興味を示し、聴いていることの意味表示を行う。
- ③リフレイン(オウム返し)：相手の言葉を繰り返します。
- ④接続詞を使って聴く：沢山の話をしてもらう。
- ⑤沈黙する：考える時間を与えたり、言葉を引き出すことにつながる。

があります。傾聴を行うことで、相手が自分自身の言葉を、自分の耳で聞くことにより、気づきが促されるという効果もあります。

3 つ目の「質問」は、承認・傾聴の延長として積極的に聴き、引き出すことです。上司・マネージャーが質問することで、部下・同僚は質問に答えるために自分で考える必要があり、その考えるプロセスで

頭が整理されていきます。結果、漠然としていたことの整理や具体化、新しい視点での発見等により、行動が促されます。具体的には

- ①オープクエスチョン・クローズドクエスチョン：オープクエスチョンは広がりを引き出し、クローズドクエスチョンは決断を促す時などに使用する。
- ②チャックダウン：チャック(かたまり)をほぐす(具体化する) 5W1H を使って具体化する。
- ③将来の「ありたい姿」を尋ねる：ありたい姿をイメージすることで、目標を考えたり、モチベーションを高めたりする。

があります。相手に興味を持ち、相手にとって必要な質問をすることや、異なる視点からの質問を行うことが大切です。

4 つ目は「フィードバック」です。フィードバックの目的は、コーチが相手から感じたことを伝えることにより、自分自身には見えていないことに意識を

向けることで、新たな気づきを促すことです。具体的には

- ①相手の許可を得る：相手に受け入れる心の準備をしてもらう。
- ②Iメッセージ：私には〇〇のように聞こえます。私には〇〇のように見えます。などを伝える。
- ③伝えたメッセージの確認：伝えたメッセージについて確認をする。

があり、短いフレーズで端的に伝え、順番に進めることが大切となります。

コーチングにおける 4 つのスキルについては以上になります。

研修ではそのほかにも、目標設定の重要性や演習・ロールプレイを通して具体的な声掛けの方法を学ぶことができました。本研修で学んだことをスタッフとの日々のコミュニケーションに組み込めるよう、意識しながら取り組んでいきたいと思っています。



ふれあい看護体験を開催して

看護師長 花岡 由美



令和7年7月25日に広島県看護協会の「ふれあい看護体験」を開催しました。ふれあい看護体験は見学や看護体験、看護師との交流を通して看護への関心を深めてもらうことを目的としています。一般応募(中学生、高校生、一般)を行い、呉市周辺地域の高校1年～3年生25名の参加がありました。

当日は、参加者全員が、少し緊張した表情でしたが、受付を済ませ、白衣のワンピースを着て、悪戦苦闘しながら髪をまとめる中、自然と緊張が和らいでいるようでした。

看護体験では、聴診器を使用しての聴診と血圧測定、車いすとストレッチャーでの移送や手洗い体験を行いました。参加者は、担当者の話を真剣に聞き、体験して、「看護師さんは普通に血圧を測っているけど、自分でやってみたらすごく難しかった。」「ストレッチャーで運ばれるのは怖かったけど、動きまですよの声かけで安心した。」「普段何も考えず手を洗っているけどこんなに汚れが残っているんだ。」など、色々な学びをしていました。

部署見学では、産婦人科病棟や小児科病棟、NICU、救命救急センター・ICU、そして手術室を見学しました。各部署10分程度の短い時間ではありましたが、担当者の説明を聞きながら回りました。小児科病棟で患儿を見て、「かわいい。」と笑顔になったり、ICUでは、「最前線で働く看護師さんがカッコ良かった。」などの感想もありました。アンケートでも、「仕事を間近で見られてとても勉強になりました。看護師になりたいと思う気持ちが強くなりました。」「病棟見学で自分の目ではっきり見ることで感じられることがたくさんありました。今後の進

路に活かしていきたいです。」などの意見がありました。

最後に1人一言感想を述べてもらいました。その中で、「相手の立場になって考えて行動することの大切さを学ぶことができました。」や「患者1人ひとりを理解して行動していくことが大切なことに気付くことができました。」などの感想があり、私たちが想像していたよりも、とても多くの学びに感謝し、嬉しく思いました。

参加者は、高校1年～3年生で、看護師になりたいと希望している人もいれば、看護師は興味のある職業の中の1つと思っている人もいて、参加の動機は様々でした。この経験を通して、看護師という職業に、より興味を持ったり、将来当院に就職を希望してくれる人が、1人でも多くいれば嬉しいです。今回は半日という短い時間でしたが、私達も参加者に元気を貰い、良い経験をさせてもらいました。ご協力頂いた皆様ありがとうございました。



聴診と血圧測定



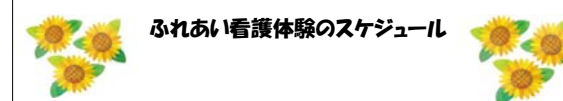
車いすの移送



ストレッチャーでの移送



手洗い体験



ふれあい看護体験のスケジュール

日時 R7年7月25日(金)13時00分～16時00分

13:00～ 受付:病院1階総合案内受け付け前にお越しください。
白衣への更衣

13:30～13:50 開会式

オリエンテーション
看護師のお仕事とは
写真撮影

聴診器を使って、
心臓の音や肺の音を
聞いてみよう

13:50～14:30 看護技術の演習体験

(血圧測定、車いす・ストレッチャー移動・手洗いの方法、聴診)

14:30～15:10 病棟見学(移動時間込み)

15:10～15:45 意見交換会

15:45～ 閉会式・更衣

16:00 解散



集合写真

8月オープンスクール

呉医療センター附属呉看護学校 教員 小山 仁一



8月30日(土)に開催したオープンスクールでは、高校生・社会人・保護者含め約80名の参加がありました。参加者の皆様のアンケート結果からは、「学校の様子がわかってよかった」「学生の雰囲気良く、楽しく学べそうだった」とご意見をいただき、中には「来年も参加します。」と直接お声がけくださる方もいらっしゃいました。次年度のオープンスクールも参加者の皆様に呉看護学校の事を知っていただけるよう、在校生と一緒に取り組んでいきたいと思ひます。



公開講座



技術体験ブース 衛生的な手洗い・個人防護具体験

8月のオープンスクールを終えて 1年生(63回生)にインタビュー

今回、初めてオープンスクールの企画・運営を担当しました。体験ブースで、皆さんにどうやってわかりやすく説明したらよいか考えることが難しかったので、同じブースを担当しているメンバーと説明の内容を考え、準備を整えました。

実際に皆さんの前で説明する時はかなり緊張しましたが、うなずいて聞いてくれていました。その後一緒に技術体験を行っている時に、笑顔で楽しそうに過ごされていたので安心しました。体験中に、「呉看護学校に入学したいと思って参加している」と言ってくださった方もいました。オープンスクールで呉看護学校の事を知ってもらい、入学してもらえたらいいなと思ひました。



座談会

出身校から後輩がきてくれて、共通の話題で盛り上がりました♪



技術体験ブース バイタルサイン測定



患者体験ブース 高齢者・妊婦体験



認定看護師の紹介

皮膚・排泄ケア認定看護師 榎 智子



皆さんは「皮膚・排泄ケア認定看護師(WOCナース)」をご存じでしょうか。「皮膚に関するトラブル」や「排泄に関わる問題」を抱える患者さんやご家族を支援する看護師のことです。日本看護協会が認定する専門資格であり、専門領域は「W(Wound)=創傷(きず)」「O(Ostomy)=ストーマ(人工肛門・人口膀胱)」「C(Continence)=失禁(尿や便のもれ)」の3つで、その頭文字をとってWOCと呼ばれています。高齢化や医療の高度化に伴い、褥瘡(床ずれ)、ストーマ造設、失禁に伴う皮膚トラブルなど、皮膚や排泄に関する問題は増加しています。これらは患者さんの生活の質(QOL)に大きく影響するため、専門的な知識と技術を持つ看護師の役割が求められています。

当院には現在、私を含め2名の皮膚・排泄ケア認定看護師が在籍しています。私が皮膚・排泄ケア認定看護師を目指したきっかけは、ストーマ造設後に皮膚トラブルで苦しむ患者さんから「わしらみたいなもんには、専門的な知識がある看護師さんが必要じゃ」と言われたことでした。その切実な思いに応えたいと考え、専門的なアドバイスやケアを行い、少しでも苦痛を和らげたいという思いで資格を取得しました。私が現在所属している7A病棟には、ストーマを造設された方や重度の褥瘡を抱える方も多く入院されており、まさに皮膚・排泄ケアの専門性が発揮できる場です。皮膚トラブルが発生した際には初期対応について相談を受け、再発防止に向けてどのような看護を行うかをスタッフと共に検討しています。また、ストーマを造設された患者さんには、装具の選択や管理方法について指導を行い、安心して療養生活を送れるよう支援しています。私は、毎週

の褥瘡回診に参加し院内の看護師やスタッフと知識や技術を共有し、チーム全体で質の高い看護を提供できるよう取り組んでいます。現場での小さな気づきや工夫を仲間と分かち合うことで、より良いケアにつなげていきたいと考えています。

また、私は病棟以外では、週1回ストーマ外来も担当しています。皮膚・排泄ケア認定看護師(WOC)やストーマリハビリテーション講習会修了者と協力しながら、患者さんやご家族の不安や疑問に寄り添い、皮膚トラブルの早期対応や装具選択の相談、日常生活への支援を継続しています。さらに、新しい製品の紹介や多職種との連携も行い、患者さんが安心して自分らしい生活を送れるようサポートしています。さらに、2か月に1回、他施設に出張しWOCナースとして褥瘡の予防やケアに関する指導を行っています。現場の看護師さんと連携しながら、患者さんにとってより良いケアが提供できるようサポートしています。他施設で活動することで、限られた時間や環境の中でも臨機応変に問題に対応するためのアセスメント能力が鍛えられていると感じています。

私はこれからも常に新しい知識や技術を学びながら、専門的なスキルを活かして患者さんの力になれるよう努めていきたいと思ひます。患者さんに寄り添い、その人らしい生活を支えることが私の役割です。今後も謙虚な気持ちを忘れず、地域や病院の中で信頼される存在を目指して努力を続けていきたいと考えています。



うちの部署の 接遇キラリさん



看護部
3A 病棟
看護師
東 保奈美さん

3A 病棟では重症外傷、急性心疾患、敗血症をはじめとした救命を要する重症患者さんを受け入れています。医師、看護師、臨床工学技士や JNP 等の多職種と連携し、患者さんの救命と早期回復に取り組んでいます。個別性のある看護を提供できるように病棟一丸となって日々看護を行っています。突然の病態変化に直面した患者さんとそのご家族が抱える不安や様々な思いに寄り添い、安全・安楽な療養環境を整えることを大切に看護を行っていききたいと思います。

西田 看護師長より

東さんは、どんなに忙しくても笑顔で患者さんやスタッフに関わっています。救命救急センターという、命に直結した現場でみんなを引っ張り、リーダーシップを取ってくれています。また今年度は、看護研究にも取り組み救命救急センターの看護の質の向上のために精進してくれています。東さんは、先輩からは安心して仕事を任せられ、後輩からは慕われる存在です。これからも、救命救急センターの中心となり、病棟を引っ張ってほしいと思います。



薬剤部
薬剤師
青木 優斗さん

私は患者さんが安心して薬物治療を受けられるように、薬の説明を行わせていただいています。患者さんに接する際は、患者さんの思いや不安に耳を傾けより患者さんが話しやすい環境を作り出せるようコミュニケーションを大切にしています。その1つとして日々笑顔で何事にも対応できるように気をつけております。

小川 薬剤部長より

青木くんは2年目ながら、明るく優しい性格で職場のムードメーカーとして欠かせない存在です。背が高くイケメンだけでなく、患者さんやスタッフからも信頼される薬剤師を目指して日々努力しています。まだ経験は浅いためミスもありますが、その度に真摯に学び成長している姿勢には頼もしさを感じます。これからの活躍に大いに期待しています。



看護部
5B 病棟
看護師
西浦 健太さん

5B 病棟は循環器科内科、腎臓内科、心臓血管外科の混合病棟です。心臓疾患や腎臓疾患の急性期から慢性期の患者さんが多く入院されています。疾患の特徴から繰り返しの入院になる患者さんも多くおられます。私は、患者さんの言葉に耳を傾け、思いを汲み取り、患者さんの立場に立った看護を行うことを意識しています。これからも笑顔で患者さんに接していききたいと思います。

佐藤 看護師長より

西浦さんは、この笑顔で患者さんだけでなくスタッフもほっこり癒してくれる存在です。いつも患者さんに優しい口調で声をかけ、気配りをしながら看護する姿が印象的です。これからも、西浦さんらしく、多くの患者さんとの関わりを大切に、より一層看護に磨きをかけ成長してってください。応援しています。



臨床検査科
臨床検査技師
小田 千寛さん

病理診断科では、患者さんから採取された細胞や組織から標本を作り、顕微鏡で鏡検し、診断を行っています。直接患者さんと接することは少ないですが、患者さんの病歴や治療歴、治療予定を把握しながら、正確な診断をすることを心がけています。これからも正確な診断や患者さんの治療に貢献できるよう、技術や知識を身に付けていきたいです。

福岡 臨床検査技師長より

小田さんは採用1年目で病理診断科に配属しています。組織診や細胞診をはじめ術中迅速診断、病理解剖など、病気の診断や治療方針の決定に関わる部門で日々頑張っています。繊細な手技と集中力が必要な部署ですが、持ち前の明るく優しい笑顔で日常業務を丁寧かつ正確に行っており、安心して業務を任せられる人材です。これからの更なる成長と活躍が楽しみです。

連携医療機関 紹介

かわもと心臓内科クリニック

院長 川本 俊治

患者さんに寄り添う、わかりやすく丁寧な医療を目指して

1. 話しやすい問診スタイル

かわもと心臓内科クリニックでは、受診された患者さんにまず看護師が丁寧な問診を行っています。医師には言いにくい体調の変化や生活上の悩みも、看護師には安心して話せる方が多く、毎日の問診の中で多くの貴重な情報を得ています。看護師が要点をまとめてくれるため、診察時には医師がポイントを絞って説明でき、患者さんにとっても分かりやすく、納得しやすい診療につながっています。

2. わかりやすく伝える診察室

当院では診察室に2名のクラーク(医療事務補助者)を配置し、問診内容や医師の説明をリアルタイムでカルテに記録しています。医師はパソコン入力に追われることなく、患者さんの目を見て、画面を一緒に見ながら丁寧に説明できます。また、病状や治療内容に応じたパンフレットを独自に作成・活用し、患者さんが

自宅に戻ってからも内容を確認できるよう配慮しています。スタッフには看護師6名、管理栄養士1名が在籍し、CPAP療法指導士や糖尿病療養指導士の資格取得にも取り組みながら、より分かりやすく実践的な指導を行っています。

3. その場で結果がわかる検査体制

当院では、糖尿病・脂質異常症・心不全などに対応するため、院内での迅速検査を導入しています。血糖値・HbA1c・コレステロール・中性脂肪・HDLコレステロールは約5分で結果が出るため、その場で治療方針を見直すことが可能です。また、心不全の指標であるBNPも約15分で結果が判明し、急性増悪時の初期対応にも役立っています。

これからも当院では、患者さんにとってわかりやすく、安心して通える医療を目指してスタッフ一同努めてまいります。



かわもと心臓内科クリニック 院長 川本 俊治

〒737-0029 広島県呉市宝町 2-23-1 (レクレ医療モール)

我が家のスターたち

保護者コメント

入園して5カ月。先生に驚かれるほど早く園生活に慣れ、毎日楽しく過ごしています。

三人兄弟の末っ子ですが、家では小さなお母さんのようにしっかり者です。

最近の1番の楽しみはお当番活動で、お当番の日には「今日は私がお当番!」と朝から張り切り、笑顔が止まりません。

最近では、お友達との関わりも増え、名前を覚えてくれたり、新しい歌をうたってくれたり、その日の出来事を話してくれます。

保育園では、家ではできない遊びや経験をたくさんさせてもらっており、感謝でいっぱいです。

これからも、大好きな先生やお友達とたくさん思い出を作ってね!!

西本 陽葵ちゃん



担任保育士のコメント

6月に入園したひまりちゃん。あっという間に慣れて、笑顔がたくさん見られるようになって嬉しいです。

「～しましょう」と言うとき1番大きい声で「ハイ!」と言ってくれる、いつも元気一杯のひまりちゃん。

しまじろうの絵本が大好きで、見ている時は自分でお話を作ってページをめくっている姿がとってもかわいいです。

お当番さんの時は、出席ノートやお皿を張り切って配ってくれます。

これからもいっぱい楽しいことをして、お話もたくさんしようね。

諏訪 唯悠ちゃん



保護者コメント

入園時は、ハイハイだった唯悠が、少し遠い公園まで歩いて行けるようになり、苦手な果物やヨーグルトも保育園では頑張ってお食べているようで、この1年と少しの間での成長を日々感じています。

ほとんど泣いたりすることなく、毎日大好きな先生やお友達と楽しく過ごせてとても良かったです。

通園できなくなるのはさみしいですが、これからも元気にスクスク成長してね!

担任保育士のコメント

最初は、みんなの横にちょこんと静かに座っていた唯悠ちゃん。

園生活に慣れてくると、笑顔も増え、お話するのも上手になったね。

朝の会では、「いっちゃんです。2歳です!」としっかり言えたり、「あ～そ～ぼ～!」と自分からお友達を誘って楽しそうに遊んでいるね。

お家では、お姉ちゃんになった唯悠ちゃん。

優しくお世話をする姿が目に見え、よ!

また会えるのを楽しみにしているね♡

呉医療センターへご寄付をいただきました。

令和7年7～9月に、ご寄付をいただきました。

◆ご寄付 ㈱昂珈琲店 細野修平 (医療機関支援のため)

みなさまからの気持ちのこもったご支援をありがとうございました。

編集後記

暑い夏が終わりようやく秋となりました。最近秋を満喫する間もなくあっという間に肌寒くなります。短い秋ですが紅葉、赤とんぼなど秋を象徴するものとふれあいたいです。寒暖差が出てきますので皆様体調管理には十分お気をつけください。

(広報委員会)